

※この文章は、全国社会福祉協会「月刊福祉」への寄稿からの抜粋です

4. CYRの活動(2)「スラムの小学校での朝給食支援」～経済成長の陰で～

近年、首都プノンペン急速に発展し、次々と高層ビルが建設されていますが、その経済成長の陰で、多くの人々が農村から移り住み、数百ものスラムと呼ばれる地域が形成されているのが現状です。カンボジアは人口の8割が農業に従事していますが、灌漑設備が整っていないと収穫量が大きく左右される上、近年の気候変動や生活様式の変化が影響し、都市に移住するようになりました。しかし、十分に教育を受けていない人が就ける仕事は多くなく、生活は苦しく、子どもたちは教育を受けられずに育ってしまいます。

CYRは、2006年より、13か所のスラムで小学校・保育所の開設と栄養支援を始めました。子どもたちが十分な食事を摂れず不衛生な環境で生活していたトロピエンズバイ村に、110人の小学生と5才児が通える小学校を建設し、翌年には朝給食と補助給食(豆乳とゆで卵)の提供を始めました。環境は劇的に変化し、子どもたちは休まず登校し、集中して授業を受けられるようになりました。また、大人たちも子どもの成長に栄養面のケアが不可欠なこと、教育の大切さを意識し始めました。支援を始めてから9年間、隣村の子どもたちも在籍し、この小学校の生徒数は777人に増えました。

朝給食の事業は、子どもたちと学校教育をつなぐ大切な支援となっています。

(特定非営利活動法人幼い難民を考える会)

